

下面開放埋込形	HTM5220V-PK14
ルーバ付埋込形	HTL5220V-PK14

- 電源は100～242Vまで対応
- 初期照度補正機能付照明器具

■器具の取付工事には電気工事士の資格が必要です。(施工は必ず電気工事店(有資格者)に依頼してください。)

施工説明

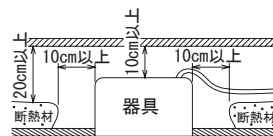
工事店様へ・・・この取扱説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意



警告

- 取付工事は「取り付けかた」にしたがい確実に行ってください。
取付工事に不備があると、火災・感電・落下の原因となります。
- 天井埋込器具です。壁取り付けや天井取り付けおよび、傾斜天井への取り付けはしないでください。火災・感電・落下の原因となります。
- 本器具は「断熱材施工」不可形です。断熱材・防音材をかぶせて使用しないでください。(右図の空間を確保してください) 火災の原因となります。
- 表示された電源電圧(定格電圧±6%)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- 器具を改造しないでください。火災・感電・落下の原因となります。



注意

- 本器具は一般屋内用照明器具です。直射日光のあたる場所・湿気の多い場所・振動のある場所・雨の吹き込みを受ける場所・腐食性ガスの発生する場所・風などが直接あたる場所では使用しないでください。火災・感電・落下の原因となります。
- 切削油などの油煙のある場所・有機溶剤や洗剤の原液等のかかるおそれのある場所では使用しないでください。火災・感電・落下の原因となります。
- 周囲温度は5～35℃以外では使用しないでください。火災の原因となります。
- 絶縁抵抗試験は必ず500V以下の絶縁抵抗計を用いてください。保護機能が作動し不点灯の原因となります。

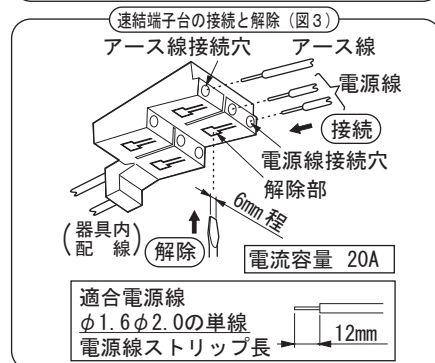
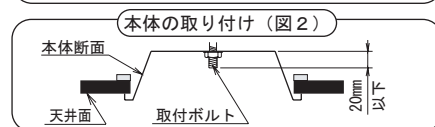
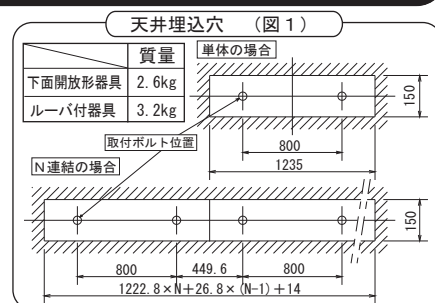
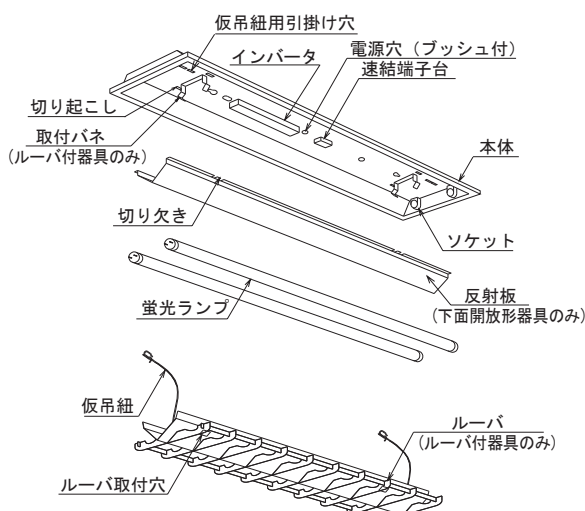
使用上のご注意

- 本器具は点灯直後、移動しま(ランプ表面のしま模様)が発生することがありますが、ランプが安定状態になれば移動しま(ランプ表面のしま模様)は消えます。
- 蛍光灯は周囲の温度や風などにより明るさが変化します。天井内および室内の換気等による器具への空気の入出りが強い所や低温となる場所では極端に照度が低下します。
- ホタルスイッチと組み合わせて使用する場合、手動リセットが動作しない場合があります。
ホタルスイッチは2箇所までとしてください。

各部の名前と取り付けかた

図は取り扱いを説明するため一部省略抽象化した図です。

- 1、天井埋込穴(図1)により、あらかじめ天井に埋込穴をあけ、その周りには野縁を組み補強する。
取付ボルトは器具質量に十分耐える強度を確保する。
- 2、本体の電源穴(ブッシュ付)から電源線・アース線を引き込む。
- 3、取付ボルトに本体を確実に取り付ける。
本体の取り付け(図2)にしたがい取付ボルトの出代は本体内20mm以下にする。
取付ボルトが出すぎると反射板・ルーバが取り付けられなくなります。



- 4、電源線・アース線を速結端子台に接続する。(図3)
(1) 電源線・アース線を指定の長さにストリップし接続穴にしっかりと差し込む。



差し込みが不十分だと火災の原因となります。

- (2) 電源線・アース線は速結端子台に接続後、反射板に当たらないよう処理する。(図4)

- アースはアース線接続穴を使用しD種接地工事を行う。
- 解除する場合は、幅6mm程度のマイナスドライバーで解除部を押し電源線・アース線ははずす。

5、下記にしたがい反射板・蛍光ランプ・ルーバを確実に取り付けける。



注意

取り付けに不備がありますと、反射板・蛍光ランプ・ルーバの落下の原因となります。

使用上の
ご注意

●ランプの特性上、片方の口金付近が暗く見えることがありますが異常ではありません。

■**下面開放器具の場合**：反射板・蛍光ランプを確実に取り付けける。(図5)

- ①反射板の切り欠きの片側を本体内面の切り起こしの片側に引掛け固定させる。
- ②反射板を内側にすぼめて、反対側の切り欠きを切り起こしに確実に取り付けける。
- ③蛍光ランプを確実に取り付けける。(図7)

(注) ソケットは回転式でランプを挿入後90度回転ごとに固定、解除となります。

■**ルーバ付器具の場合**：蛍光ランプ・ルーバを確実に取り付けける。(図6)

- ①蛍光ランプを確実に取り付けける。(図7)
(注) ソケットは回転式でランプを挿入後90度回転ごとに固定、解除となります。
- ②ルーバの仮吊紐を本体内面の引掛け穴に取り付け、ルーバ取付穴に取付バネが引掛かるまで、ルーバを押し上げる。



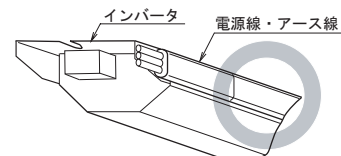
必ずしてください

取付バネが、ルーバ取付穴に確実に引掛かっているか確認する。
取り付けに不備がありますと、ルーバの落下の原因となります。

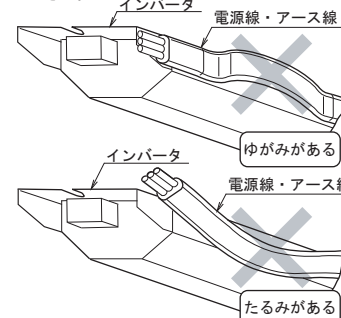
6、工事完了時に蛍光ランプが正常に点灯するか確認する。

* ランプ交換やお手入れは、5項の逆の手順でルーバ・ランプをはずして下さい。

電源線・アース線の処理のしかた (図4)

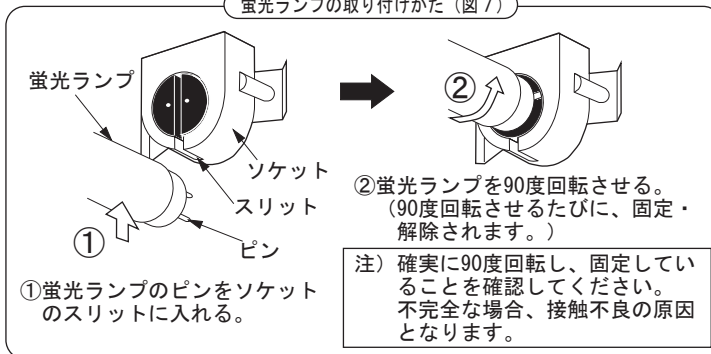


●インバータの横に電源線・アース線を通す場合は、上図の様にインバータの側面に電源線・アース線を沿わせた状態で反射板・ルーバを取り付けてください。



注) 電源線・アース線に大きなゆがみやたるみがありますと反射板・ルーバが取り付けられない場合があります。

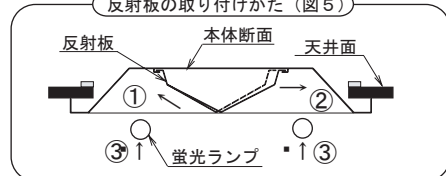
蛍光ランプの取り付けかた (図7)



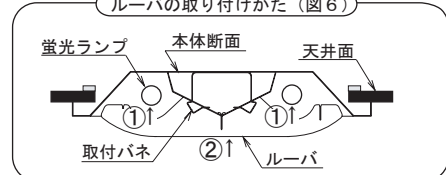
② 蛍光ランプを90度回転させる。
(90度回転させるたびに、固定・解除されます。)

注) 確実に90度回転し、固定していることを確認してください。
不完全な場合、接触不良の原因となります。

反射板の取り付けかた (図5)



ルーバの取り付けかた (図6)



取扱説明

お客様へ・・・この取扱説明書は必ず保管してください。

■このたびは日立照明器具をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。

安全に関するご注意



警告

- 器具を改造しないでください。火災・感電・落下の原因となります。
- 器具のすきまや放熱穴に、金属類を差し込まないでください。火災・感電の原因となります。
- 器具やランプを布や紙など燃えやすいもので覆ったり、かぶせたりして使用しないでください。火災の原因となります。
- 煙がでたり異臭がしたら、すぐに電源スイッチを切ってください。火災・感電の原因となります。
- ランプ交換やお手入れは、取扱説明書により確実に行ってください。火災・感電・落下の原因となります。



注意

- 器具の近くで温度の高くなるもの(ストーブ・ガスレンジ等)を使用したり、近くに燃えやすいものを置かないでください。火災の原因となります。
- ランプ交換の際には、本体表示および、取扱説明書にしたがって指定されたランプを使用してください。指定以外のランプを使用すると、火災・不点灯・絶縁不良の原因となります。
- ランプだけを器具から取りはずしての間引き点灯はしないでください。火災・短寿命・絶縁不良の原因となります。
- 明るく安全に使用していただくために、定期的に清掃・点検をしてください。不具合がありましたら、そのまま使用しないで工務店・電気工務店等に修理を依頼してください。
- 3～5年に1回は電気工務店等の専門家による点検を実施していただき、不具合がありましたら交換してください。
- 照明器具には寿命があります。使用条件・使用環境で異なりますが、8～10年が交換の目安です。

使用上のご注意

- 電波の弱い場所（山間・鉄筋建物等）では、ラジオや室内アンテナ使用のテレビに影響することがあります。
- 器具の近くで赤外線リモコン方式のテレビなどを使用するのは、お避けください。リモコンを操作しても動作しないことがあります。
- 器具の近くでワイヤレスマイクの使用は、お避けください。雑音が入り正常に動作しないことがあります。
- 低温時には明るくなるまでに時間がかかったり、一部明るさのムラが生じることがありますが、異常ではありません。

初期照度補正機能付照明器具使用上のご注意

初期照度補正機能とはランプ初期の余分な明るさを自動補正する機能です。

一般的に新しいランプは設計照度より30%程明るくなります。初期照度補正機能とは、ランプが新しい時の明るさを抑え、設計照度（ランプ初期時の約70%の光束）を保つように、器具ごとに明るさを自動補正する機能です。本器具には累積点灯時間を記憶するタイマーを内蔵しており、新しいランプに交換した場合は次の操作が必要となります。

●ランプを寿命末期まで使用の場合

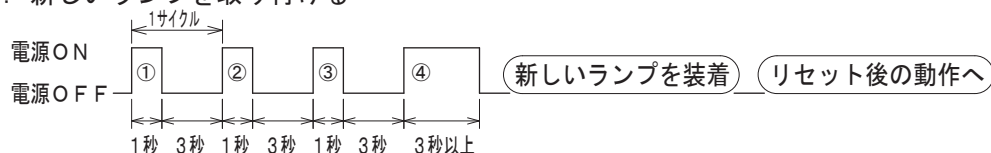
寿命を検出し（間欠発振後、発振停止となります）、ランプを消灯して自動的にリセットします。ランプ交換後は、ランプの明るさが初期照度状態に戻ります。

●ランプを寿命末期前に交換する場合（手動でのリセット操作が必要です。）

ランプ寿命前に新しいランプと交換する場合には、自動リセットが動作しないため、手動でのリセット操作が必要となります。

〔個別にランプ交換を行う時のリセット操作（その器具だけをリセットする場合）〕

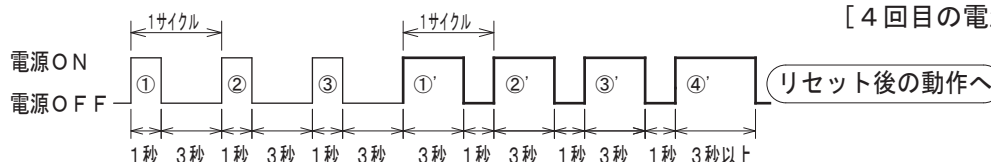
1. ランプを取り外す
2. 電源ON（1秒）、OFF（3秒）の操作を4回繰り返す〔4回目の電源ONは3秒以上〕
3. 新しいランプを取り付ける



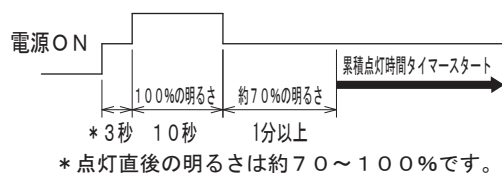
〔一斉にランプ交換を行う時のリセット操作（全ての器具を一斉にリセットする場合）〕

（全ての器具のランプを新しいランプに交換後、一括でリセット操作を行います。）

1. ランプを取り外す
2. 新しいランプを取り付ける
3. 電源ON（1秒）、OFF（3秒）を3回繰り返し、続けてON（3秒）、OFF（1秒）を4回繰り返す〔4回目の電源ONは3秒以上〕



〔リセット後の動作（約13秒間は100%の明るさで点灯します）〕



- リセット操作が完了しますと、点灯13秒後に約70%の明るさに変化します。
- リセット後の動作では、約70%の明るさに変化後1分以上点灯させたままにしてください。1分以内に消灯すると、リセットされません。
- リセット操作後、最初の点灯で左図の様に明るさが変化しない場合は、リセットが正しく行われていません。再度リセット操作を行ってください。2回目以降は照度補正された明るさで点灯します。

その他の ご注意

- 2灯用器具の場合、ランプは2本同時に新しいものと交換してください。
- 器具・ランプの汚れに対する補正はできません。定期的な清掃をお勧めします。
- 蛍光ランプの明るさは点灯時間の経過につれて徐々に低下します。2000時間程度で交換して頂くのが明るさ維持の目安です。
- ホタルスイッチと組み合わせて使用する場合、手動リセットが動作しない場合があります。ホタルスイッチは2箇所までとしてください。

お手入れ・ランプ交換

! 必ず電源を切ってから行ってください。感電・やけどの原因となります。

- ランプの口金付近が黒ずみますとランプの寿命です。そのままご使用をつづけますと明るさが落ちるだけでなく、器具の寿命も低下させますので、新しいランプとお取り替えください。

! 必ずしてください	ランプ・反射板（ルーバ）がほこりなどで汚れますと、明るさが低下します。汚れが目立ちはじめましたら器具よりランプ・反射板（ルーバ）をはずし、きれいな布をせっけん水に浸してよく絞ってからふきとり、さらに乾いた布でふいて仕上げてください。化学ぞうきんを使用する場合は、その注意書にしたがってください。	お手入れなどでランプ・反射板（ルーバ）をはずし、再度取り付ける場合は、「各部の名前と取り付けかた」にしたがい確実に行ってください。不備がありますと、落下してけが・物損の原因となります。
禁止	みがき粉・ベンジンなどでふいたり殺虫剤をかけないでください。また器具の水および洗剤での丸洗いは、絶対にお避けください。傷つき・変形・変色・サビの原因となります。	点灯中や消灯直後は、ランプが高温となっていますので手を触れないでください。やけどの原因となります。
! 必ずしてください	ランプ交換の際には下記のランプを必ずご使用ください。 指定以外のランプを使用すると、火災・器具の破損の原因となります。	
	交換ランプ	FHF45S

保証について

- 照明器具の保証期間は、商品お買上げ日より1年間です。但し、電子安定器は3年間です。
- ランプなどの消耗品は対象外とさせていただきます。
- 保証期間を過ぎているときは、お買い上げの販売店（工事店）にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

アフターサービス・・・ご使用中、器具に異常が生じた場合は直ちに使用を中止し、電気工事店または下記のところに、器具の形式・故障状況を連絡のうえ修理を依頼してください。

日立アプライアンス株式会社

〒105-8410 東京都港区西新橋2-15-12 電話(03)3502-2111